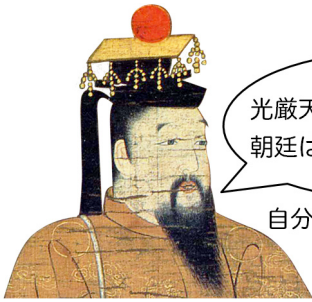


建武の新政

鎌倉幕府の倒壊後、後醍醐天皇は幕府が擁立した光厳天皇の存在を否定し、再度政治を開始した。以後の後醍醐の治世を「建武の新政」と称する。延喜・天曆の治を理想として天皇の権限集中を図ったが、貴族・武士・農民の反発を招いた。やがて中先代の乱が起こると、足利尊氏は公然と後醍醐に反旗を翻した。

○ 束の間の新政

● 新しい政治の開始



光厳天皇（持明院統）の朝廷は存在しなかった。

自分は即位中だと主張

(1) _____ 天皇
(2) _____ 統

政治再開
年号は「建武」

(3) _____
天皇に権限を集中した（院・摂政関白否定）。
→重要政務を担う⁽⁷⁾ _____ や、
土地問題を取り扱う⁽⁸⁾ _____ が、
中央に再興・設置された。
⇒訴訟・土地所有の確認なども含めて、
最終決定に天皇の⁽⁹⁾ _____ を必要とした。
◇(6) …宣旨の伝達経路簡略版

(4)・(5) 以外の機構

土地問題担当の雑訴決断所を除いて、
中央機構の最終決定は天皇が下す。
「トップダウンの組織」と言える。

中央	(4) _____ …恩賞事務を担当 / 武者所…京都の警備
地方	(5) _____ …関東の統治機関 (成良親王・足利直義)
	(6) _____ …奥州の統治機関 (義良親王・北畠顕家)
諸国では国司・守護を併置	

● 新政への不満

貴族・武士・農民など広い層から批判・不満の声が出た。

⇒民衆の思いを代弁する 800 余字の落書（風刺）として、

⁽¹⁰⁾ _____ が掲げられた。



二条河原落書
作者未詳だが、七五調・言葉・批判精神から、作者はかなりの知識人と分かる。

● 新政の崩壊

1335 年、⁽¹¹⁾ _____

…北条高時の遺児北条時行が鎌倉を占領した事件

⇒⁽¹²⁾ _____ は反乱を鎮圧すると、

鎌倉で新政権の組織化を進め、後醍醐天皇に公然と反旗を翻した。



1336 年、(12) は京都を制圧して⁽¹³⁾ _____ 統から

光厳上皇の弟⁽¹⁴⁾ _____ 天皇を即位させた。

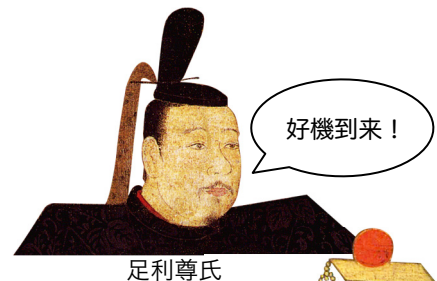
⇒他方、後醍醐は奈良の⁽¹⁵⁾ _____ へ逃れ、自らの皇位を主張した。



持明院統による京都の朝廷⁽¹⁶⁾ _____ と、

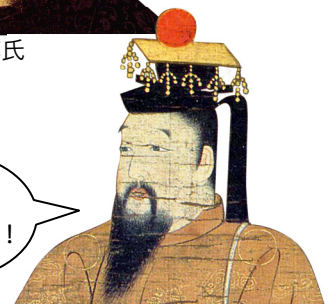
大覚寺統による吉野の朝廷⁽¹⁷⁾ _____ が並び立った。

⇒以後、2つの朝廷が対立する南北朝の動乱が約 60 年間続いた。



足利尊氏

南朝こそが
正統な朝廷！



後醍醐天皇